

平成29年度第3回青少年指導関係運営協議会 会議録

日 時 平成30年2月19日（月）
午後3時から午後4時30分
場 所 市民総合福祉会館第1談話室

出席委員 吉田一雄委員、縄谷尚志委員、池谷道雄委員、薄葉良委員、
地曳文利委員、岩崎正人委員、稲井陽一委員、齋藤和利委員、
櫻井隆雄委員、鈴木清委員

1 開 会

2 まなび支援センター所長挨拶

3 協議

- ①「木更津警察署管内における青少年の現状と木更津警察署の取り組み」
木更津市警察署 生活安全課長 岩崎正人 委員
- ②平成29年度まなび支援センター青少年指導関係活動報告
- ③第20期木更津市青少年補導員候補者について
- ④報告・意見交換

〔事務局から説明〕

それでは只今から、平成29年度第3回木更津市青少年指導関係運営協議会を開催いたします。会議開催にあたり委員14名のうち、出席者10名、欠席者4名、過半数の出席がございますので、会議が成立しておりますことご報告いたします。なお、本協議会は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公開されておりますが、本日の傍聴人はございません。それでは、協議に入ります前に、木更津市まなび支援センター所長の齊藤よりご挨拶申し上げます。

齊藤所長あいさつ

それでは、これより協議に入りたいと思います。吉田会長に座長をお任せいたします。よろしくお願いいたします。

〈吉田会長〉

それでは、協議に移りたいと思います。協議事項①といたしまして、木更津警察署生活安全課長でいらっしゃる岩崎委員から「木更津警察署管内における青少年の現状と木更津警察署の取り組み」についてお話をいただきたいと思います。

岩崎委員よろしくお願いいたします。

〈岩崎委員〉

平成29年中の管内の非行少年並びに不良行為少年の補導状況等についてご紹介いたします。昨年の非行少年につきましては、罪を犯した少年、犯罪少年は62人の検挙で、内訳といたしましては、傷害や暴行といった粗暴犯罪、または、自動車盗、万引き、空き巣というような窃盗が主なところですが、62人の検挙の内、強制力を用いた、所謂、逮捕の数は14人になります。千葉県下39署警察署がありますが一番高いものになります。一方で、非行少年の前段、喫煙、深夜徘徊、飲酒というような、所謂、不良行為と呼ばれるような補導にあたった数は531人でした。平成28年と比較しますと63人の減少というところですが、低くなったから管内の不良行為が少なくなったか、というのは一概にはいえない状況ではあります。昨年の非行少年の年齢構成というところでいいますと、下は14歳から上は18歳という枠の中ですけれども、特に中学生、2年生や3年生、高校に行けない無職少年16歳ですとか、この辺の年齢層のところでの非行が昨年は目立ったというところですが、併せて、検挙したそれぞれの少年、実際にはグループ化されています。一人の単独犯であったとしても、その背景には実際にはグループ、組織的なものではないですけれども、そういったところがあります。逮捕された後、審判を受け、保護観察扱いとされるわけですが、非行が繰り返されている現状です。繋がりというところでいくと、君津市や市原市とネットワークが設けられているというところですが、無免許運転による非行とそれに伴う窃盗等による非行が懸念されていまして、しかも、集団化しています。無免許といえば、一昔前までは、少年といえばオートバイによる暴走行為というところですが、今、子ども達が使っているのは自動車です。無免許で車を乗り回している。非常に懸念される状況であります。管内の青少年の全体の数からするとほんの一部ですが、与える影響は非常に大きいというところですが、中学校、高校の交友関係があるところでのトラブルということで、学校等に押し掛けたり、というようなケースも耳に入っている状況です。現状では、その対象となる少年の行動を逐一把握することに努めています。一方で、SNSを取り巻く状況は深刻であります。中学生、高校生のSNSの利用率は非常に高いものがあります。現状では、小学生にまで及んでいます。何をしているかといいますと、非行少年たちの連絡網というところ、万引き等をするにあたって、SNSを使って伝達、仲間を呼び合うケースもあります。また、これ等非行とは別の形での非行というものがありまして、仲間内での性に関する行き過ぎた興味ということで、男の子ですと陰部の画像の提供、女子生徒ですと、掲示板等で知り合った相手方の求めに応じて裸の画像を送りつけ、結局、そのことが最終的に脅迫まがいだとか、そういったところの部分に繋がるというようなケースが多々あるというのが現状です。非常に多く相談を受けています。女子生徒に関しましては、不登校だとか、こういった子達における逃げ場というわけではないんですけれども、これ等の掲示板等を使って家出をします。家出をした後に、最終的に宿泊先を掲示板を使って募って、成人男性と連絡を取って、そこで自分の体を提供するということを対価とした形で宿泊する、というような現状もあります。掲示板、出会い系サイトという

ところから通じた知り合った形でのトラブルというのが非常に多いということですので、その危険性というところの部分は是非知っていただきたい。ひとたび間違えれば命を落とすような、そういったレベルのところまであるということで、リスクを背負うということを知っていただきたい。情報のところをお互いそれぞれの機関で持っているものは共有しながらそれに対して対処していかないといけないものですので、実状を知ってもらいたいというところでは。

〈吉田会長〉

ありがとうございました。青少年が加害側になる場合と被害側になる場合と両方あるかと思いますが、一つ気になるのは、どういった背景というか、家庭環境にあるような子ども達なんですか。

〈岩崎委員〉

客観的な目で見たと時に、母子家庭ですとか、父子家庭ですとか、そういった家庭環境は多いなというのは感じます。母親父親が努力していることが子どものほうに伝わらないですとか、逆に、父親母親が息子の非行に対して加担しているですとか、幼少期に同じようなことをしていたですとか、そういったケースもあります。一方で、交友関係というところで、本人が自分の意思をはっきり示すことができなくて、そのまま悪い環境の中に引きずり込まれてしまうというケースがあります。ネットワークというところで、他署管内に拡げている影響というのは、家庭に寄り付かない、夜行性というか、昼と夜が逆転してしまっている、不登校というところに表れているのかなと思います。

〈吉田会長〉

従来の警察の取り組みの仕方、被害なり加害なりの減少にプラスになるのでしょうか。

〈岩崎委員〉

一学校なり、一家庭なりの問題では留まらないというところですので、ネットワークを通じた対応が不可欠です。学校だけ、家庭だけ、警察だけで、これを解決できる問題ではないということが実状です。

〈縄谷委員〉

学校と警察との連携がしっかりできているのでありがたいですね。

〈齋藤副会長〉

SNSなどでは、中々監視が難しいと思います。ネットパトロールをしていても、何か重大なことが起きていても、閉じられた世界では中々見えない。社会的な問題ですが、個人情報の開示があればいいんですけど。

〈吉田会長〉

親なり、フィルターなり、何か歯止めを掛けてあげないと、そういった機能を使いこなす能力がまだないんじゃないかと思うんですね。責任を取れるかどうかというところの見極めが、特に、子ども達はできていないんじゃないかなと思います。

〈岩崎委員〉

SNS等は、この先、子ども達にとって必要不可欠なものになる。であるならば、それを止めさせるというよりは、その利用によってこういったリスクがあるというのを小学校の時から指導することが必要なのかなと思います。

〈齋藤副会長〉

危険性を含めた使い方、道徳論になってしまうかもしれませんが、一步間違うと大変なことになってしまうので、そういったところが今後必要なのかなと思います。

〈岩崎委員〉

SNS等の問題の背景には、間違った使用法によるもの、というのがありますので、小さい時から指導していかないといけないのかなと思います。

〈吉田会長〉

健全な目的のためだけにフィルターを掛けるとかというのは良いことなのか、というのは議論されているところですが、いかがわしいところを経験しないと危険がわからないという、そういう側面もあるんだろうなと思うんですね。しかし、今は、そちらの方が爆発的に出てしまっているの、そうすると、もう少し段階的に考えないといけないのかなという感じもしています。しかし、陰部ですとか裸の写真を出すという行動は、やらないものだよ、ということは、教えられないとわからないんですかね。気楽に写真を撮って共有するという文化が割と広がったので、何でも撮ればいい、という感じもあるのかもしれないですね。

〈齋藤副会長〉

いい意味でのコミュニケーションも生まれているので、今後その使い方を学校や家庭で教育していかないといけないのかなと。中々難しいことだと思いますけど。

〈縄谷委員〉

携帯の使用時間が短い家庭は、実は、携帯使用のルールを決めていない家庭、という面白いデータがあるんですね。ルールを決めていない家庭は二極化しているんですが、ルールを決めていないから全然守ってないという家庭と、親子関係がしっかりしている家庭。一番多いのは実は、親子関係がしっかりしている家庭が一番使用時間が短い家庭なんですね。コミュニケーションがしっかりしていて信頼しているから短い使用時間が守られている。一概に、ルールを決めていないから使用時間が長いとか、ルールを決めているからしっかり使用時間を守っているとか、そういうことではなかったんですね。親子のコミュニケーション、信頼関係がしっかりしていれば、というデータもあります。

〈吉田会長〉

それは、子どもにしてみると、親に信頼されているから応えなくてはいけないとか、そういうことなんですか。それとも、裏切りたいとか、そういう感情ではなくて、それが当たり前という感じなんですかね。

〈齋藤副会長〉

学校と家と、2箇所の大人しか知らない子ども達が多いので、子どもの居場所を如何に

多くつくって、その中で他の大人と付き合いながら、子ども食堂だったり、学習支援の場だったり、その中で、世間一般的に、いい意味で揉んであげて、中には尖ったところもあるだろうから、それは自然にその中で揉まれて、あっ、これはいけないんだ、と自分の中で反省して、その尖った部分を自分なりに削ぎ落として、子どもと子どもだけじゃなくて、大人を含めた他人と交流できる場をどんどんつくっていったらいいんじゃないのかなと。

〈吉田会長〉

大学生のボランティアの団体があるんですが、上手く機能しているようなんですね。ちょっと年上のお兄さんお姉さんと勉強半分遊び半分みたいところがあるんですが、お菓子を食べながらとか、私も拝見したこともあるんですが、勉強時間というふうに決められた枠の中では、それぞれがかなり集中していました。何かわからないことがあれば質問するけど、そうじゃなくて自分で勉強するみたいな雰囲気があって、めりはりというか。そこに足を運ぶきっかけになったのはゲームとかなんですけど、恐らくそれはすごくいい効果があって、最近の大学生は忙しいので、中々なりがいないというのが悩みですけども、世代を繋いでくれる子達がいるといいですね。補導に行かれて、非行とか、不良行為とか、最近目にすることはありますか。

〈齋藤副会長〉

ほとんどないですね。表に出てない。家庭内で、閉鎖的なところで遊んでるというか、インターネットに繋いでゲームをやっているとか。パトロールに行っても子どもを見ないというような状況です。

〈岩崎委員〉

喫煙なりとか、飲酒なりといったところも、表だったところもあるんですが、実際は、彼らの中で溜まり場があって、あいつの所に行けば泊まれるし、好きなことができるよ、ゲームもできるよ、酒も飲めるよ、煙草も吸えるよ、というような環境があって、あえて表に出ない。そういった溜まり場が問題視されています。親も見て見ぬふりというようなところもあります。

〈齋藤副会長〉

先だって、中等少年院の水府学院に視察研修で行ってきましたが、勉強のできない子ども達も、教官のもと、できない教科を中心に基礎から教えてもらい、そうすると段々わかってきて、どんどん勉強ができてきて、大学入学資格検定を受けられるようになったりとか、ただ、その子達が外へ出ると世間の目で、あの子は、という言葉の裏で、どうしても自分が傷ついて、再犯でまた戻ってってしまうケースがある。そういった話を聞いてきました。我々大人も、偏見の目で見るとはなくて、それなりに立ち直ってきている子だから、ということで見なければいけないと学習させてもらいました。

〈岩崎委員〉

今までの環境から切り離し自立できる環境を与えてあげる、立ち直す機会を先を見据えて考えてあげる、ということも必要になってくると思います。

〈吉田会長〉

一旦中に入り込むと中々出にくいということですよ。

〈岩崎委員〉

複雑な家庭環境の中で、同じような境遇、家庭環境の子と結び付き合っ、最終的に、いいところに目を向ければいいんでしょうけれども、悪いほうの犯罪というところに目を向けてしまう、というようなところで、グループ化、組織化してしまう。本人がこれではいけないと、離脱する意思があって実行できればいいんですが、どうしてもまたグループに戻ってしまう。お互い結び付き合うというようなところが少年問題の一番大変なところだと思いますので、それを如何に周りが中に入り、立ち直りの部分で目を向けて気が付かせるか、というところだと思うんですね。本人たちの自発的な立ち直りの部分も必要ですが、周りで環境をつくってあげることで、いい方向に進む子も中にはいます。本部では、彼らの中に入って、スキンシップをとりながら青少年の健全育成を図る、立ち直り支援活動を継続して実施しているところです。

〈吉田会長〉

フェイス・トゥ・フェイスの関係というのが物凄くプラスに働く訳ですね。岩崎委員ありがとうございます。

続きまして、平成29年度まなび支援センター青少年指導関係活動報告について事務局より説明願います。

〈事務局〉

平成29年度まなび支援センター 青少年指導関係活動報告

〈吉田会長〉

それでは、本年度の活動報告について協議してまいりたいと思います。本日の協議会は本年度のまとめであると同時に来年度に向けた建設的なご意見をいただければと思っております。それぞれの委員の皆様のお立場から、ご意見等ございましたらお願いいたします。

〈櫻井委員〉

こども110番の家ですが、他市ですと、警察署、若しくは教育委員会なりが看板を用意して各学校に配る、といった形をとっているかと思うんですけど、木更津市ですと、学校によって全く違うんですね。一つの中学校が学区の小学校と連携してお金を集めて看板をつくったり、各学校が一つの学校だけで学区の看板をつくったりというのが現状なんです。それで、木更津市は統一性がないという話が出まして、これは、何年か掛けてそういう話をしていかなければならないんですけれども、是非、市の方か、若しくは警察署の方でまとめてつくっていただいて、例えば統一的なマニュアル等も配っていただけると非常に有り難いんですが。

〈事務局〉

木更津市におけるこども110番の家に関しましては、各学校さんですとか、各PTAさんですとか、それぞれに立ちあがっていったということで、それぞれで看板をつくって

デザインの一貫性がなかったりしていたんですが、経年劣化がひどくなってきたということで、当時の木更津市PTA連絡協議会の会長さんが、この際まとめて統一的な看板をつくりましょうと音頭をとって、まなび支援センターがサポート事務局ということで窓口になって看板をつくらしていただいたという経緯がございます。その際、見積額と実際の購入額との間に若干の差額が発生いたしまして、事前に購入費用をいただいております各事業主体さんへその差額を返金するのではなく、まとまった形で将来的に青少年の健全育成に生かしましょうとプールしていたお金があったんですが、昨年度、木更津市PTA連絡協議会さんへ、有効活用してくださいと、お返しといいたいまいしょうか、寄付をさせていただいた経緯がございます。マニュアルに関しましては、立ち上げの最初のスタート時点が、それぞれで立ち上がったということがございますので、学校単位なり、自治会単位なり、各事業主体さんが立ち上げた時につくっていただいた規約なりがあらうかと思っております。

〈鈴木委員〉

祇園小学校ではありますね。新しく受けますかという文書と一緒に案内が同封されてきます。何年前までは生徒と先生と一緒によろしくお願ひしますと挨拶で廻ってました。スタートは二小か二中が最初で、二番目が鎌足で、それを見て、祇園小は、連絡協議会が中学校単位じゃなくて小学校単位であったから、それで、看板に木更津警察署と祇園小学校の名を入れて、均等に配布されているかどうか参加者のマップをつくりました。ある程度毎年更新しています。ただ、保険に入るにはPTAでないと入れないということで、PTAさんに引き継いで、最終的にはPTAさんが窓口になっているかと思っております。

〈事務局〉

まなび支援センターといたしましても、サポート事務局はなくなったわけではありませぬので、何かありましたらお話いただくなり、検討してまいりたいと思っております。

〈櫻井委員〉

会に戻って今一度相談してみます。

〈吉田会長〉

他に活動方針について何かございますか。それでは、来年度も引き続きよろしくお願ひいたします。次の議題に移りたいと思っております。第20期木更津市青少年補導員候補者について事務局から説明お願ひいたします。

〈事務局〉

来年度2年に一度の委嘱替えとなります木更津市青少年補導員ですが、今現在推薦をいただいている状況をご説明申し上げます。年末に市内45地区の市政協力員の方に次期第20期の木更津市青少年補導員候補者85名の推薦を願ったところでございますが、現在53名の推薦をいただいております。現在の第19期木更津市青少年補導員の人数は81名ということで、4名の欠員を生じているわけですが、今現在10地区22人の推薦をまだいただけていない状況でございます。ただ、年度末ということで、これから推薦をいただく地区もございまして、19期同様の補導員数の推薦をいただくことにならうかと思

います。なお、委嘱状交付式は4月21日を予定しております。同日は、木更津市青少年補導員連絡協議会総会及び研修会も開催される予定になっております。

〈吉田会長〉

それぞれの地区からの推薦ということですが、年度末ということもありますので、しばらく待って、推薦の進捗状況を確認しながら進めていただければと思います。それでは、引き続き事務局で連絡調整等をお願いするというところでよろしいでしょうか。ご質疑等ないようですので、協議④ 報告・意見交換に移りたいと思います。それぞれの委員の皆様のお立場から、ご発言をお願いいたします。

〈齋藤副会長〉

先程、水府学院の話を見せてもらいましたが、閉ざされた世界で、悪いものの影響がないところに閉じ込められて矯正されることによって、伸びることは伸びるんだなど。罪を犯してしまったという反省の場である訳ですが、ある意味いいところであり、次のステップのために勉強もしている。ただ、世の中に出た時に、子ども達は世の中の目というものが一番怖いようで、それだけは、皆で見守ってあげたいなと思いました。

〈池谷委員〉

定時制と聞いただけで世の中の人達は子ども達を色眼鏡で見ている。子ども達もそれを感じている、というのが現状だと思います。我々大人が、どこかで子ども達を差別しているんじゃないかな。

〈薄葉委員〉

喫煙行為が減ってきた傾向があったんですが、電子タバコが出てきて、インターネット等で簡単に手に入ってしまうというのがあるかと思いますが、また、喫煙が増えてきているように感じます。

〈地曳委員〉

児童虐待やDVの事案に対して一つ一つ対処していかなければいけない状況がございますので、警察関係の皆さん、学校関係の皆さんと連携をとりながら進めてまいりたいと考えております。

〈縄谷委員〉

特別支援の子ども達をどう手厚く指導していくのかというのが今大きな課題になっています。

〈岩崎委員〉

非行少年の問題については特効薬はないので、地道な対応活動というのは欠かせないと思います。我々警察も皆様の貴重な意見は大変参考になりまして、こういった情報交換の場を活かしていきたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

〈稲井委員〉

少年非行の件数は減ってきているんだと思うんですが、再非行率というものが割合として増えてきている。問題を抱えている子が一定数いる中で問題にあったっていかなければ

いけない。その中で、処分が出た後、保護観察中であるとか、少年院から戻ってきた後に、改めて非行を犯してしまう子がありますが、中々周りに馴染めずにといいところも話に聞きます。少年院では社会に戻るための勉強をしておりますので、暖かく厳しく、両方の目で見えていただければと思っております。

〈櫻井委員〉

この1年非常に糧になることが多かったです。親の資質が下がっている部分が非常に多いと思いますので、木P連といたしましては、色々と働きかけていきたいなと思います。

〈鈴木委員〉

子ども会では体験実習をメインに行っております。子ども会に入っていないなくても呼びかけていますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

〈吉田会長〉

時間がまいりましたが、子ども達を直に何とかするというだけでは足りないということがこの会を通じてよくわかりました。実は子ども達の指導よりも親の世代の指導が今は非常に課題だということのようで、直に体験学習のようなものの機会を増やすですとか、対話の時間を長くすることですとか、そういったことが何か解決の糸口になるような、そういった話をいただいたと思ひます。それでは事務局へお返しいたします。

〈事務局〉

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。平成30年度第1回の運営協議会は、平成30年6月の下旬を予定しております。委嘱替えの年度になりますが、今後とも青少年健全育成のためにご尽力いただければ幸いです。当センターの運営にご指導ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます、本日の会を閉じたいと思ひます。ご協力ありがとうございました。